

## 第21回鎮守の杜フェスタ (京都府神社庁委託)

日 時 2018年6月24日(日)  
場 所 南丹市美山町 知井 八幡神社  
天 候 晴れ  
参加者 18名(内子供一人) スタッフ 8名 合計 26名

毎年恒例となっている「鎮守の杜フェスタ」平成30年度の第21回は、かやぶきの里で有名な美山町にある「知井八幡神社」での開催となりました。



早速境内の中を散策しながら自然観察です。  
榊(サカキ)木+神 神様にお供えする植物です。

大きな大きな切り株には、周りのスギ・ヒノキの大木から落ちてきた種が「まだ赤ちゃん」といった様子で未生となって並んでいました。

近くで見るとその葉の違いが一目瞭然です。「どっちが生育争いに勝つのかな？」との質問には「育ちが早い杉かな」と指導員。

ヒサカキはサカキに非ず。よってヒサカキ。  
ヤブツバキ。ツバキアブラが有名なこの植物、この時期は実を付けています。  
春の山菜天ぷらには欠かせない「コシアブラ」も観察する事が出来ました。

神社・仏閣には必ずといって良いほどのサクラの木も、種類は断定できませんが、しだれ桜とオオシマザクラかなといった感じです。

ここまで植物に注目してきましたが、昆虫に注目です。  
ウメの木の小枝に一列に並んで先端に穴が空いているもの発見。

これはなにの抜け殻でしょう。3回まで答えていいよと唯一小学生の参加者(女の子)



に訪ねると。「ガ」と答えた後続けて「テントウムシ」と正解が飛び出しました。これには指導員も保護者の方も共にびっくりでした。正式には「アカホシテントウムシ」。葉の陰をよく見ると抜け出した「成虫」を見る事が出来ました。

神社などのウメは防虫をしないので、テントウムシのえさとなる「ウメカイガラムシ」が沢山付きます。ここでも自然界のサイクルを感じます。ウメにとって害虫と益虫が共存する世界感を感じます。

杉林の落葉の上を歩くと、ぴよんぴよん跳ねる「カエル」の登場です。小さなカエルが青々とした葉の上に仲良く並んでいました。



境内にある小さな池へと進むと、木漏れ日のスポットライトを浴びる様に「イモリ」がぼっかりと浮かんでいました。

その池を覆う様に繁った葉を見ると、なにやら泡の塊がぶら下がっています。「モリアオガエル」の卵です。泡に包まれた卵から「オタマジャクシ」が池に落ちてくる、その時を「まだか、まだか」と待っているようです。

傍には、この卵を産んだ親ガエルでしょうか。大きく青々とした「モリアオガエル」が卵を見守るように佇んでいました。

この後、観察会は香りの強い「サンショウ」「ミツバ」「カキドウシ」などの「葉」揉んで爽やかな香りを確認しました。

最後に「テントウムシ」を的中させた少女が「ホタル」を見つけたようですが、落ち葉の下に潜り込んでしまって見つける事ができませんでした。もしかしたら珍しい種類の「ホタル」だったのかもしれませんが。

心配されたお天気も晴天に恵まれて、無事第21回の鎮守の杜フェスタ「自然観察会」を終える事ができました。

(山本)